

第107回 10月12・13・14日開催

島田大祭

～ 島田大祭の見どころを紹介します 其の三 ～

【島田大祭 生中継】放送日／10月14日(月)祝 午前8時30分～午後1時
放送局／TOKAI ケーブルネットワーク 問い合わせ／☎0120-633-338
※ 都合により、放送時間が変更になる場合もあります。



新組
【新田町】
案内人：新組 祭典委員長
増田 正蔵さん

新組は…といっても「大祭」で何を担当しているのか、市民の皆さんには、案外知られていないかもしれません。

新組は、大祭の最終日に、大井神社の御神体を御神輿に乗せ、御仮屋(元宮)の御旅所まで3年に一度、里帰りをさせることが役目です。御神輿は400kg以上あるといわれ、黄金色の装束に草鞋履きの担ぎ手16人の肩にずしりと食い込みます。御神体は女神様なので、揺らさず静かに道中を往復するのが特徴です。

御神体を先導しお守りするのが、高下駄を履いた天狗さん「猿田彦」です。それに従う随神や金棒そして若頭は、全て青年の役目です。御位記・御神宝・弓・矢・御太刀持ちは、白装束の小中学生が務めます。総勢100人近くからなる行列は、古式ゆかしい歴史装束と相まって、ひと際、目を引きま

す。100戸程の町内のため、老若男女の協力が無くしては、大祭は成功しません。町民全てが、300年以上連続と続く大祭への奉仕に誇りを持ち、御神体を無事に運行させるため、気持ちを一つにして準備を進めています。



猿田彦と随神・金棒・若頭



元宮
【御仮屋町】
案内人：元宮 祭典委員長
松本 愷夫さん

我が元宮は「お宿」を担当します。大祭最終日、大名行列を先頭に御神体を乗せた御神輿など約1kmにおよぶ「御神輿渡御行列」は、朝に大井神社大鳥居から出発し、昼頃に元宮御旅所に到着します。お宿とは、行列に携わった青年や中老そして子どもたちが休憩する際に、大井神社に向けて無事に帰って頂けるよう、お世話をする役割です。

元宮御旅所の境内には幟旗4本、御旅所参道入口には神域と俗界とを仕切る仕切り提灯が掛けられます。提灯の色は丸に×印の大井神社紋です。大祭年には、町内衆が総出で幟旗を立ち上げ、それは町内の誇りとなっています。また旭町により、御旅所の境内には御神輿を安置する仮宿が設けられ、杉の葉で屋根や紋などを飾り付けます。その姿は一見に値すると思えますので、ぜひお越しください。

元宮は、県無形民俗文化財に指定されている大奴にも選手を送っています。また子どもたちは、大名行列の御殿様をお守りする黒鉄砲(男児)・赤鉄砲(女児)に参加します。他の街が複数の町で一つの街をなす中、元宮は一町一街で頑張っています。



杉の葉で飾られた仮宿に安置された御神輿



やたい
屋台



かしまおどり
鹿島踊

大井
神社

第
一
街

第
二
街

第
三
街

第
四
街

第
五
街

第
六
街

第
七
街

新
組

元
宮



第六街

【本通六丁目、南町】

案内人：第六街 中老長
あらい かずあき
荒井 和章さん

第六街は、本通六丁目と南町の町内で構成され、島田大祭では「鹿島踊」を担当します。

鹿島踊は、延宝年間(1673～)島田宿に疫病が蔓延した時、現在の大井神社の地に春日神社をお祀りし、疫病退散の踊りを奉納したのが始まりです。島田鹿島踊の特徴は「道中踊」といわれ、神社まで行けない人々のために、神様をお連れして細い路地などをくまなく踊り回ります。人々は、家の中で床に伏したままでも、鹿島の笛や太鼓の音、そして踊り子の掛け声に向けて祈願することができます。

平成20年からは、島田第三小学校の3年生を対象に「和文化教育」の一環として「鹿島教室」を開講しています。地元の芸能文化として、鹿島踊と大祭の歴史を学んだ後、毎週1時間・延べ2カ月、踊りの体験授業を行っています。平成23年には(財)静岡県文化財団から、文化継承の功績を称える最高位の「文化活動賞」を受賞しました。

第107回島田大祭でも、鹿島教室で学んだ子どもたちが、精いっぱい踊ってくれると期待しています。子どもたちが頑張る姿を、ぜひご覧ください。



蓬萊橋で披露される鹿島踊

第七街

【本通七丁目、祇園町、高砂町】

案内人：祇園町 資料広報委員長
おおつか よしお
大塚 淑夫さん



第七街は、江戸時代の行政区画「下平(下組)」に基づくもので、当時は七丁目・天王村(祇園町)・白髪村(高砂町)で構成されていました。島田大祭では「大名行列」を担当しています。

大祭が始まった元禄頃の「神輿渡御行列」は、先導の代官、「山伏」姿に仮装した川越衆、神輿、鹿島踊の順でした。その後、先導していた代官が府中に移り、島田陣屋は留守になりました。そこで、享和3年(1803)の大祭からは、子どもの殿様を中心とした仮装の「殿様行列」が先頭に加わりました。また、山伏姿の川越衆は奴に姿を変えて「大奴」と呼ばれ、行列に組み込まれました。

大正期に入ってから、行列の役職も増え、順序や服装などがかなり忠実に再現されるようになり、今日に至っています。また、平成8年には「静岡県指定無形民俗文化財」に指定されました。

今回も、行列への参加者を募集しています。他の街からでも参加可能ですので、希望される人は、ぜひ第七街祭典本部へご連絡ください。



ひと際ダイナミックな大鳥毛